



## 従兄の死を悼む

今年の8月末に私が子供の頃から親しくしていた6歳年長の従兄（猛さん）が94歳の生涯を閉じたという訃報を受け悲しい思いをした。そこで猛さんとの長年に亘るお付き合いの中で、印象に残る様々な思い出があり、私と関係の深かった事柄について述懐してみたい。

私が子供の頃といえば今から80年ほど前のことで記憶の定かではない事柄も多いが、思い出として蘇るものの中からピックアップしてみたい。そのころは多くの家庭が大家族制であって、祖父母、父母、兄弟姉妹、そして子供たちとの同居が普通の家庭環境であった。しかも私は親戚関係の家庭と近かったために従兄弟姉妹たちの交流が深かったようでした。

その頃末っ子の私はまだ子供であって、税務署長をしていた父は眼病のために50歳で退職して隠居生活に入り善通寺町吉原村に新居を構えた頃であった。しかし10年後に父は喉頭がんのため60歳の若さで昭和17年に他界した。丁度大東亜戦争最中のことでもあり、私は丸亀中学校の1年生であったが、その後の母は今でいう母子家庭のような道を歩むことになったと思われる。

丁度その頃猛さんは志願して軍人になっていたが、昭和20年に終戦となり復員してからは、出身校である多度津工業高校の教師として再出発した。機械好きの私は猛さんの教科書を借りて教えてもらうのが楽しみで知識を得ることに興味が尽きなかった。昔から子供は父の後ろ姿を見て育つと言われるが、父の居なくなった私は従兄を父の姿として見ていたのかとの思いもある。

猛さんの軍隊時代は長くはなかったが、生涯の中で最も懐かしい印象深い時間を過ごした時期であったという。それは辛い苦しみの連続であったが、これを耐え抜くことができたことで強い体力と精神力が培われ、戦後の混乱時代を乗り越える大きい力になったと自叙伝の中で述べている。この様な猛さんとの交友の中で思い出される、いくつかの出来事を振り返ってみたい。

その頃多度津の白方にあった海水浴場は海岸が広く遠浅で海流は穏やかで大きい松林が適当日蔭をつくり、海水浴場としての人気は高く繁忙していた。吉原村からは約4kmの距離があり、歩いて行くのが普通の時代であって海水浴も楽ではなかった。そんな或る日猛さんとその友人に連れられて海水浴に行ったところ、その日は天候に恵まれ海も穏やかで、三人はボートを借りて海水浴

場から真正面に見える亀笠島（約1・5kmの距離にある）を目指して漕ぎ出した。波は静かで潮の流れも緩やかで若い先輩は元氣よく島に近づいたが、安全のためにと引き返し無事海水浴場に帰着でき安堵した。もし遭難でもしたら一人の母はどう思ったかと気になったことが忘れられない。

また、年代は定かでないが猛さん達が企画した大歩危峡でのキャンプにも参加したことがあった。当時の土讃線はトンネルの連続で機関車の煤煙に悩まされながら大歩危駅に降り、溪流の河原でのキャンプを開いた。当時よく使われていた飯盒炊爨で食事をし、清流の水を飲んだ。溪流の水音や山林の騒めきを耳にしながら眠ったが疲れは残った。翌日の帰宅途中で疲れたので先輩に砂糖水を貰って飲んだところ、今までの疲労感がすーと軽くなったことに驚いた。この砂糖水の効果を初めて知った子供時代の体験は今も忘れられない。

その後私は厳しい生活環境の中で苦勞しながら高校そして大学という学歴を経て、昭和30年3月に徳島大学医学部を卒業した。当時はその後1年間のインターン制度（大病院での研修）が義務づけられていたので、私は家庭の事情もあって国立善通寺病院での研修を始めた。その頃戦後の社会復興の一つとして陸上自衛隊が旧陸軍善通寺師団跡地に設置され多数の隊員が駐屯していた。更に町の復興も進み歓楽街では社交ダンスが流行し始めた頃であった。

ある夏日に猛さんに誘われて社交ダンスのレッスン場を覗いて見ると多くの自衛隊員や若い青年男女が所狭しと踊っているのを見て興味を覚えた。その後吉原から自転車で出かけ1～2時間のレッスンを楽しむことが多くなったが、猛さんと一緒ということで母も黙認していたのだと思う。しかし、年の暮れになってからは翌年六月に実施される医師国家試験の準備のためには必要と思いきっぱりレッスン通いを止めたので未完成のダンスに終わった。

何時からか知りませんが猛さんは絵画を描く趣味をもち、先生に学んだり、独学で勉強したりと自宅の勉強部屋で絵の具を嗜んでいるのを見るが多かった。私は絵の趣味がなく猛さんの作品を幾つか頂いて診療室や自宅に飾っている。この様に歳を重ねても出来る趣味は人生を豊かにすることになり老後を楽しむことができると思われた。

終わりに猛さんをお気の毒な方だと思ったのは、十数年前に奥様のご希望で自宅療養をされていて私がその最後を看取ったことでした。そして猛さんは10年ほど前に大阪に居る息子さんの元に引っ越され、その後お会いする機会がなかったことが私にとり心残りです。 合掌

